

秋の彼岸によせて

平成十六年九月 大乘寺 住職 岡 光俊

今年はまさに、お釋迦さまがお説きになられた、あくせまつぼう悪世末法の世を、私たちの前に見せておられる如き現象が起きております。

皆さまもご自身、静かに振り返って頂けば、これではよくはないよねと、どこかで感じておられることでしょう。なにかがおかしいと。

お釋迦さまは、自然のあらゆる現象は、そこに住む人の心の現れと説かれます。不自然を自然に変えるのは、人の心を不自然から自然に変えることしかない。それでは、自然な人の心とは、どのような心をいうのでしょうか。お釋迦さまは、佛の心に近づくことと申されています。

佛さまの心に近づくには、もうこれでよいと満足せずに、常に菩薩になるための修行をすることが大切であり、菩薩にならせて頂くには、如来さまのお言葉を固く信じ守らせて頂かねばならないと説かれておられます。人間の多くは、下のものと見てしまう餓鬼がきや畜生ちゆうじゆうと比較をして、人間である自分のほうが優れていると思ひ込み、自分は偉いのだと勘違いをし、佛さまの申される努力は自分には必要ないと、おのれ己の正当性を取り繕うことに時間を惜しまないものです。これらの心を持っていてる人のことをお経の中では「無知の者は錯乱し 迷惑して教えを受けず われ知んぬ此の衆生は 未だかつて善本を修せず 堅く五欲に着して 疑愛の故に悩みを生ず」と申されております。また、僧に對しても、「比丘びく、比丘尼びくにの 増上慢ぞうじょうまんを懐いだくことある …自ら其の過を見ず…この人福德少なくして」とも申されております。このように、お釋迦さまから見れば、あまりにもすべての人間が愚かであると申されます。

そんな人間がなにを頼りに心を磨かせて頂ければよいのか、お釋迦さまは「如来妙色身にょらいみょうしきしん 世間無譽等せけんむよとう 無比不思議むびふしぎ 是故今敬来…」ぜここんきやうらいと如来さまをお迎えし、如来さまに、人知を遙かに越えた、無量無

辺へんの佛知をお教え頂きなさいと申されております。

そして、如来さまのお言葉に従い、親子の苦しみ、夫婦の苦しみ、仕事の苦しみ、金銭の苦しみ、病の苦しみ、人間関係の苦しみなど、人が受けるすべての苦しみを受けたかたのみが、心が正しくなると説かれおります。

自分の思い込みや、考えで自分が正しいと思っている人は「無知の者」ということで、不自然ということでしょう。

私たちが日頃から、感じている正しい心と、あまりにもかけ離れている心が正しい心のようにです。その心を一人でも多くのかたが持つことにより、自然界も平穏な平和な地球に戻っていくと申されま

す。
ご自身が正しいと思っておられるかた、あなたは、ご自身がなんのためにこの世に生まれさせて頂いたか、本当にご存知なのか？

毎日、心の底から幸せとお感じですか？なんの不安も不満もないですか？ご先祖さまに対し感謝で一杯ですか？

答えが「いいえ」のかたは、ご自身は、この世に生まれさせて頂かれた意義も目的も使命も役目もなにもご存知でないことに気づかれるべきです。不安不満は真実を知らないことから起こっているものです。そして子孫の為、自分の為、世界平和の為、今あなたの心を正しくすることです。そのために、お釋迦さまは三千年前より人間の傲慢ごうまんを憂い、正しい心に変わる方法を、お経に納められたのです。

秋の彼岸、人間の愚かさに気づくことができるかたは、お経を手に取り、ご先祖さまと共に、お釋迦さまのお言葉に心を傾けてみましょう。